



2022年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年8月15日

上場会社名 株式会社ジモティー 上場取引所 東
 コード番号 7082 URL <https://jmt.y.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 貴博
 問合せ先責任者 (役職名) CFO 兼 CSO (氏名) 佐野 星一郎 TEL 03-6303-9258
 四半期報告書提出予定日 2022年8月15日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第2四半期の業績（2022年1月1日～2022年6月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第2四半期	905	12.8	171	△41.4	181	△36.6	152	△36.8
2021年12月期第2四半期	802	14.9	292	76.9	286	73.8	241	74.9

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第2四半期	28.16	27.84
2021年12月期第2四半期	42.18	41.64

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第2四半期	1,512	1,125	74.4
2021年12月期	1,574	971	61.6

(参考) 自己資本 2022年12月期第2四半期 1,124百万円 2021年12月期 970百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2022年12月期	ー	0.00			
2022年12月期（予想）			ー	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年12月期の業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,949	13.9	446	18.5	454	21.7	382	5.2	71.51

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期財務諸表及び主な注記(4) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年12月期2Q	5,996,365株	2021年12月期	5,996,365株
② 期末自己株式数	2022年12月期2Q	574,913株	2021年12月期	579,913株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年12月期2Q	5,419,767株	2021年12月期2Q	5,728,628株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、2022年8月15日(月)に機関投資家・証券アナリスト向け説明会を開催する予定であります。当日使用します四半期決算補足説明資料は、説明会開催後当社ウェブサイトに掲載する予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による影響の長期化を背景に、依然として厳しい状況が続いており、企業収益に与える影響については、先行きが不透明な状況が続いております。このような環境のなかで、当社はクラシファイドサイト「ジモティー」を通して、地域の情報が幅広く集まるプラットフォームを提供することで、地域の情報を可視化し、地域の人とのマッチングを推進してまいりました。

新型コロナウイルス感染症による生活動態の変化により地域内情報の必要性が増大し、当社サービスをご利用いただく機会は増加している一方、経済活動の停滞は継続しており、緩やかに回復傾向にはあるもののまだ十分な水準までは改善しておらず、今後の先行きも不透明な状況であります。

当社では、持続的なプラットフォームの成長のために、地域内で互いに必要なモノや情報を融通しあえる場所へと進化するべくサービスの改善に努めてまいりました。具体的には、ユーザー数拡大の取組みとして、行政と提携しリアルなリユース拠点を共同運営することで、ごみの減量とリユース数の最大化を図ってまいりました。また、中長期の収益性拡大を目的として、ジモティーのプラットフォームを基盤とした新機能拡充に向けた実証実験を、当第2四半期累計期間を通して実施してまいりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は905,525千円（前年同期比12.8%増）、営業利益は171,619千円（同41.4%減）、経常利益は181,561千円（同36.6%減）、四半期純利益は152,616千円（同36.8%減）となりました。なお、第1四半期会計期間の期首から「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日。）等を適用しております。

なお、当社はクラシファイドサイト運営事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載をしておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は1,350,078千円となり、前事業年度末に比べ62,702千円減少いたしました。これは主に、売掛金が8,564千円増加した一方で、現金及び預金が55,581千円減少、前払費用が17,143千円減少したことによるものであります。固定資産は162,070千円となり、前事業年度末に比べ119千円増加いたしました。これは、有形固定資産が119千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は1,512,148千円となり、前事業年度末に比べ62,582千円減少いたしました。

(負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は220,162千円となり、前事業年度末に比べ182,190千円減少いたしました。これは主に、買掛金が4,826千円増加した一方で、未払金が178,640千円減少、未払費用が3,161千円減少したことによるものであります。固定負債は166,226千円となり、前事業年度末に比べ35,000千円減少いたしました。これは、長期借入金35,000千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は386,388千円となり、前事業年度末に比べ217,190千円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は1,125,759千円となり、前事業年度末に比べ154,607千円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が152,207千円増加した一方で、資本剰余金が5,085千円減少、自己株式が7,510千円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は74.4%（前事業年度末は61.6%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ55,581千円減少し、当第2四半期会計期間末には1,128,188千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は20,191千円（前年同期は154,846千円の獲得）となりました。これは主に、税引前四半期純利益181,561千円の計上、仕入債務の増加額4,826千円、未払金の減少額178,640千円、法人税等の支払額29,722千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,790千円(前年同期は1,428千円の支出)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出2,790千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は32,600千円(前年同期は516,835千円の支出)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出35,000千円、自己株式の処分による収入2,400千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点で、2022年2月14日に「2021年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

また、新型コロナウイルス感染症が及ぼす当社への影響についても2022年2月14日に公表いたしました「2021年12月期 決算短信」に記載の前提条件に変更はなく、売上高については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による広告市況の動向は不透明ではありますが、ユーザー数の増加及び新規の取組みによる収益拡大を図っていきたいと考えております。また、費用については、広告宣伝費等の配分を費用対効果の観点から臨機応変に見直したいと考えております。

なお、当業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後業績予想を修正する必要がある場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,183,770	1,128,188
売掛金	203,369	211,934
前渡金	477	477
前払費用	23,641	6,498
その他	1,521	2,980
流動資産合計	1,412,780	1,350,078
固定資産		
有形固定資産	10,126	10,246
投資その他の資産	151,823	151,823
固定資産合計	161,950	162,070
資産合計	1,574,730	1,512,148
負債の部		
流動負債		
買掛金	10,558	15,385
1年内返済予定の長期借入金	60,000	60,000
未払金	188,105	9,464
未払費用	51,817	48,655
未払法人税等	38,122	38,636
前受金	29,196	29,567
その他	24,551	18,451
流動負債合計	402,352	220,162
固定負債		
長期借入金	195,000	160,000
資産除去債務	6,226	6,226
固定負債合計	201,226	166,226
負債合計	603,578	386,388
純資産の部		
株主資本		
資本金	308,657	308,657
資本剰余金	1,168,751	1,163,666
利益剰余金	363,485	515,693
自己株式	△870,675	△863,165
株主資本合計	970,219	1,124,852
新株予約権	932	907
純資産合計	971,152	1,125,759
負債純資産合計	1,574,730	1,512,148

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
売上高	802,478	905,525
売上原価	92,992	105,276
売上総利益	709,486	800,248
販売費及び一般管理費	416,796	628,628
営業利益	292,690	171,619
営業外収益		
受取利息	6	5
預り金失効益	—	10,598
雑収入	369	—
営業外収益合計	376	10,603
営業外費用		
支払利息	705	661
支払手数料	6,199	—
営業外費用合計	6,904	661
経常利益	286,162	181,561
税引前四半期純利益	286,162	181,561
法人税等	44,539	28,944
四半期純利益	241,622	152,616

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	286,162	181,561
減価償却費	1,975	2,670
受取利息	△6	△5
預り金失効益	—	△10,598
支払利息	705	661
支払手数料	6,199	—
売上債権の増減額(△は増加)	24,178	△8,973
仕入債務の増減額(△は減少)	6,268	4,826
未払金の増減額(△は減少)	△152,298	△178,640
その他の資産の増減額(△は増加)	15,912	15,684
その他の負債の増減額(△は減少)	△1,513	2,999
小計	187,582	10,187
利息の受取額	6	5
利息の支払額	△705	△661
法人税等の支払額	△32,038	△29,722
営業活動によるキャッシュ・フロー	154,846	△20,191
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,428	△2,790
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,428	△2,790
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300,000	—
長期借入金の返済による支出	△20,000	△35,000
自己株式の取得による支出	△802,985	—
自己株式の処分による収入	8,640	2,400
新株予約権の発行による収入	509	—
その他	△3,000	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△516,835	△32,600
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△363,417	△55,581
現金及び現金同等物の期首残高	1,399,370	1,183,770
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,035,952	1,128,188

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、中古車割賦販売については、従来、販売時に割賦販売契約金の全額を収益計上しておりましたが、そのうち利息相当額については金融要素に該当するものと判断し、決済期日までの期間にわたって償却原価法(利息法)により各期の収益に配分する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は63千円減少し、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益は63千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は409千円減少しております。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

当社は、クラシファイドサイト運営事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

当社は、クラシファイドサイト運営事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。